

福祉業界のPR（全体）について

※○第1回専門部会での意見 ●意見票に記載の意見

- 福祉業界そのもののイメージが悪いことが先行しているため、こうした取り組みを通じ、まずは就職先の選択肢として他業界と同じ土俵に上げることが大事である。
- 福祉職に就いている方々は、経済性以外の価値観を持っていることが想定される。そのような「なぜやってい るのか」ということを明文化・言語化していくと良いのではないか。
- 情報収集・アセスメントをして、その人に適したプロの介護をしているのだということが一般的にはあまり知 られていないため、そのような神髄について発信していただけると良い。
- 人の暮らしそのものに全般的に関わっているのが福祉であり、入口としては誰もが関わる普遍的な業種であるため、そのようなことを情報として示せると良いのではないか。
- 福祉業界には、聖人君子のような性格ではないと入れないとイメージを持っている人が少なくなく、悪い イメージというよりも、高い志がないとできない仕事だといったハードルの高さに繋がっていると思われる。
- 福祉職が就職先を選ぶ際の選択肢として他業界と同じ土俵に上がれるよう、現場の生の声（やりがい・苦労・仕事を通じて得られるもの等）を発信できると良い。
- 福祉職の役割が、目の前のクライアントにとって重要ということは当然のことありますので、広く訴求するためには、そこを超えていくもの = より社会的なものとしての訴求が必要ではないかと考えます。例えば、地 域にひらくケア展開は「街づくり」の一端を担う仕事である、とか精神障害者に対するストレングス視点やリ カバリーといった考え方は、メンタル不調者が増えている一般産業にも通じる大切な概念である、など、これ からの社会に広く必要なエッセンスがつまっている点に価値がある、といった感じです。

Web上におけるPRについて

※○第1回専門部会での意見 ●意見票に記載の意見

【ロールモデル・キャリアパス関係】

- ロールモデルやキャリアパスによって成長の経過を示すことが良いのではないか。
- キャリアパスについては、ずっと介護の現場という道だけではなく、例えば地域のまちづくりやコンサルティングに携わる人、介護ロボットや自閉症の方のためのアプリ開発など、多様な福祉のフィールドがその先に広がっていくこともあると伝えられると良いと思う。
- キャリアパスは明確にすると多くのパターンが生じてしまうため、プロフェッショナルという道と、より地域社会に近いジェネラルという道を、想像力が膨らむように抽象化・普遍化しながら示すことが考えられる。
- 就職後の資格取得やキャリアパス例を時系列的に示せると、将来像をイメージしやすい（高齢・障害・児童・保育等業種により様々なパターンがあるため、代表的なものに絞る）。

【福祉職場の魅力の伝え方】

- やりがいについては他の業界も同じようにSNS等で発信しているため、例えばクリエイティビティがある、チームで仕事を行うためフォローできるなどといった観点が伝えられると、就職時に学生が選択しやすくなるのではないか。
- やりがいだけではなく、転職のしやすさ等の面で魅力やメリットを見せていくやり方もある。
- SNSの発信において、待遇面についてもこのところの改善されたリアルな様子を若手スタッフから発信してもらうといいのでは？

Web上におけるPRについて

※○第1回専門部会での意見 ●意見票に記載の意見

【その他効果的なコンテンツ】

- 福祉の仕事に就くためのフローチャートがあるとよい。介護職やケアマネ、ヘルパーや保育士等職種別に。
- 現場職員の1日の流れ、休日の過ごし方、仕事外の趣味活動等を画像や動画で見られると現状が伝わりやすい。
- 世間で思われている3Kやコロナ禍においてのエッセンシャルワーカーの過酷さを逆手にとった発想で「2020のコロナでは、想像する以上の苦労があった。しかしウチの施設はこのように乗り越えた。今では～～」といったリアルな現状と併せて魅力発信もしていってもらえたと思う。
- 施設に求人も同時に募集できるようにするという案もあるが、ほっこりできる後に求人があるのは、下心丸見えのようにも思える。どのように伝えるかによると思うが、求人、インターシップがあることを伝えられるようにするとよいのではないかと思う。

教員・高校生（学生）向けのアプローチ（1／2）

- 高校の進路指導室等にも基礎的な資料はあるはずであり、それと差別化した、かつ福祉の悪いイメージを払拭する内容が提示できると良い。

- 「なぜ教員は福祉職になることを抑制するのか（あるいは勧めないのか）」に真正面から向き合うことが必要ではないかと思います。私自身の推察では、「貨幣価値（カネ）を最重視しているため」「福祉の可能性を過小評価、あるいは理解していない（単なる肉体労働と考えている）」「そもそも知らない世界」かと思っていますので、こうしたことを覆す内容で訴求する必要があるのではないかと思います。

教員・高校生（学生）向けのアプローチ（2／2）

※○第1回専門部会での意見 ●意見票に記載の意見

- ・教員や保護者が福祉職を勧めない理由を調査し明確化した上で、負のイメージを払拭するための情報を提供する（やりがい・得られるもの等）。
- ・福祉の仕事は崇高な理念や特殊な資格、技術がないと務まらないというイメージがあるのであればその点も払拭したい（特別でなく自分自身・家族・地域に関わる身近な仕事であること等）
- ・キャリアパス例など、就職後の見通し（資格取得・給与・職制等）が目に見えるかたちで示すことができるといい。
- ・介護業界では外国人スタッフの採用も進んでいるため、多国籍の方々と触れ合うことができる点も魅力として伝えたい。
- ・福祉職の日常的な仕事のやりとりを1分間動画やリールなどの活用して見せる。
 - ・「福祉にマイナスイメージしかない人」「福祉職に就きたいけど、周囲に反対されている人」といったように迷っている内容ごとに見れるフローチャートのような構成があってもよいのではないかと思う。
 - ・介護の仕事は、ご利用者（高齢者や障害者、子ども）にも心があり、その人の人生をサポートしている仕事だが、目に見えていること（例えば、食事介助、移乗介助など）は、ただ介助しているのではなく、どのようにしてその援助に至ったのかといったプロセス（介護過程）があるのだ。ということがわかるようなものをどこかに入れてほしい。介護は実践の科学であり、観察・分析の上で成り立っているということを知ってもらいたい（つまりは、いい仕事というだけでなく、知的興奮できる要素も介護にはあることを知ってもらいたい。もちろん、福祉職どれにおいても同じだと思うが）
- ・ターゲットを教員・高校生とするにも、現在の福祉業界の魅力と将来性（キャリアパス）、現実性（ロールモデル）に加え、福祉業界で身につく能力を示すことも必要かと思います。
- ・福祉業界に限らず多様化する働き方や、転職をしやすい業界事情などを踏まえると、福祉の仕事を継続して希望する者はもとより、福祉以外の仕事から転職する者も、福祉業界ではどのような能力が必要なのかが分かれば、就職の選択肢の一つに選びやすくなると思います。
- ・その一方で、福祉業界から福祉以外の仕事を選択する際でも、身につけてきた能力を自覚できることで、その能力を活かした他業界の仕事も広く選択でき、他業界への転職もしやすくなることを知るだけでも、福祉業界を選択しやすくなるかと考えます。

その他ご意見等

※○第1回専門部会での意見 ●意見票に記載の意見

【「福祉」について】

○福祉自体の範囲が広いため、SNSで発信するにしても、ターゲットをある程度絞った方が良いのではないか。

●「福祉人材」という括りを逆に前面に出さないようにしたほうがいいのではないか。「福祉＝偉い」のようなイメージ自体が変わっていくような取組が必要。「福祉職」という用語自体が福祉の仕事をしている人の視点に感じる。内輪のムーブメントでとどまってしまうのではないか。
あまり「福祉」という枠を押し付けない方が効果的では?社会に応えるとか、生きづらさを持っている人の支えになるとか、そういう見せ方の方がキャッチャーだと感じる。

●福祉＝介護のような固定概念も払拭すべき。施設職員であっても、ソーシャルワーカーとして地域に関わっていく扱い手であることには変わりないし、医療、保健、心理、事務等、様々な職種の人が活躍している。「福祉職」という括りが公務員用語っぽい。もっと開かれたイメージを持たれるような発信の仕方の方が多くの学生に関心を持ってもらえるのでは？

●在宅介護、施設介護をひとくくりにせず、「在宅」をピックアップしていただけると嬉しいです。（今なら都の喫緊の課題としての施策とも合致するのではないかと思料します）

【キャラクターについて】

●ふくむすびの時よりも更に「キャラクター」が前面に出てきていて違和感が増した。男子学生は逆に見なくなってしまうのではないか?女子学生もどれほど好感をもつのか疑問。

●「福祉」「キャラクター」という2つで既に間口が狭まるイメージ。そうならないような工夫が必要。福祉→「偉い人がやること」、キャラクター→「やさしい人に見てほしい」「キャラクターに惹かれる人をターゲットにしている」というフィルターがかかっている時点で、メッセージが届く層が限定されると思う。

その他ご意見等

※○第1回専門部会での意見 ●意見票に記載の意見

【Web関係】

- 実名や写真を掲載するのに抵抗がある職員もいる。匿名やイラスト等も可にできないか。プレゼントの対象は実名、写真掲載の方限定でよいと思うが。
- 介護系インフルエンサー等の活用を予定されているようですが、福祉職をメインとして就業している方を積極活用して欲しいと思います。
また、福祉職がメインではないインフルエンサー等については、自身が表に立つのではなく、表には福祉職が出ていただき、それを拡散していく役割を担う、という形を望みます。
- 参考にあるように、声のあげやすさや発信しやすさは、匿名のメリットがある反面、否定的な声もあげやすいことから、デメリットとなる声に対する対策も必要かと思います。

【その他（ご提案等）】

- 福祉職の発信力アップのためには、ITリテラシーを高める必要性を感じます。福祉職の発信力を高めよう！みたいな交流イベントなどあると面白いと思いました。
- 福祉に新たな価値を生み出そうとしている、新進気鋭の経営者、福祉職と教員・高校生の対談企画などどうでしょうか？
- 学生・生徒たちからの参加があってもよいのではないだろうか。例えば、「介護職に就きたい！でも親の反対に合ってる。3Kがなんだ！」みたいな不安なことの内容も入れるのもOKにしたらどうか。それに応えるように「うちの施設は基本給○○だよ」など、実際に働いている人たちからの発信があるのもわかりやすいと思う。こういったやりとり（思っているほど悪くない）があると、わかりやすくてよいのではないかと思う。
福祉科のある高校、社会福祉、保育などの福祉系の学部、学科に依頼して発信するのもよいかと思う。もちろん、プラスな内容も入れてほしいが。それを見て、現役の福祉職のみならず、一般の方にも「いい仕事」と認識してもらえるのではないかと思う。